

交野市立
教育文化会館
(交野市)

ザ・見遊じあむ

.....62

のどかな田園風景が広がる交野市の住宅地に、まるで中世ヨーロッパの城郭のような、ひときわ目を引く建物があります。茶色をベースにした鉄筋コンクリートの2階建てで、1929年(昭和4年)、交野無尽金融株式会社(現在の近畿大阪銀行の前身の一つ)の

田園風景で目を引く 中世ヨーロッパの城郭!?

新社屋として建てられました。建物の一部からは塔が突き出して3階建てになっており、屋上には中世の城郭に見られる狭間(壁穴)があります。1942年(昭和17年)に交野町(現

は交野市)に寄贈され、庁舎として使われたこともありましたが、市庁舎が移転してからは「交野市立教育文化会館」となり、館内の歴史民俗資料展示室には、市内で発掘された考古資料や、市民から寄贈された近世以降の民具などを展示。地元の人ボランティアの方が

河内木綿の伝承教室も開いています。建物は2007年に国の登録有形文化財に指定されました。



近づけば歴史の風格を感じます



交野市の歴史、文化を常設で展示

ミュージアムメモ

▶所在地/交野市倉治6丁目9の21▶交通/京阪交野線「交野市駅」、JR学研都市線「津田」駅から京阪バス「南倉治」下車、徒歩1分▶開館時間/10時~17時(入館は16時まで)▶休館日/月・火・祝日▶入館料/無料▶連絡先/電話072-893-8111・交野市文化財事業団

「桜田門外ノ変」



井伊大老暗殺事件と幕末の日本を描く

四天王寺境内の墓地に高橋親子の墓と碑が建立されています。大沢たかおの関鉄之介、妻役で長谷川京子、子に加藤清史郎が出演しています。

「十三人の刺客」に続いての時代劇です。幕末、開国派の幕府大老・井伊直弼は、反目する水戸藩主・徳川斉昭を謹慎させ、「安政の大獄」で吉田松陰など尊王攘夷派を弾圧していました。水戸藩士・高橋多一郎などの有志は、脱藩して井伊直弼を討つ盟約を結びます。そして1860年(安政7年)3月3日、関鉄之介ら水戸脱藩士17人と、薩摩藩士1人の18人が暗殺実行部隊となり、江戸城桜田門前で井伊直弼一行を襲撃し暗殺しました。世に名高い「桜田門外の変」です。

学校で、日本史とくに幕末のことを習うときには、必ずこの「桜田門外の変」が教科書に登場します。しかし、事件の背景や成り行きについて意外と知られていないのではないのでしょうか。映画は吉村昭の原作に沿って、実行犯の指揮を執った関鉄之介を中心にじっくりと描いていきます。

このシネマ がえいび

三平が切腹を遂げた部屋(箕面市・萱野三平旧邸)



部屋の中に鎮座する三平の像

毎年12月になれば、時代劇「忠臣蔵」が演劇やドラマで登場しますが、大阪にも赤穂浪士として悲劇的な最期を遂げた萱野三平という人物がいます。延宝3年(1675年)、現在の箕面市萱野の地に生まれた三平は、父・重利の主人である旗本・大嶋出羽守の推挙で、13歳の時に播州赤穂の浅野家に中小姓として仕官しました。元禄14年(1701年)3月14日、浅野内匠頭が江戸城松の廊下で吉良上野介に斬りつけた刃傷事件の時、江戸の赤穂屋敷にいた三平は、事件を国元の赤穂に知らせる使者として、早駕籠で昼夜の区別なく早駆けしました。途

中、駕籠が故郷である萱野の生家の前を通り過ぎるとき、偶然にも母親の葬式に出会いましたが、主君のご用があるため、そのまま駕籠を急がせ赤穂に向かいました。赤穂城の明け渡し後、萱野へ帰った三平は、大石内蔵助を中心とする仇討ちのメンバーに名前を連ねていましたが、父・重利は三平を推挙した大嶋家へ迷惑が及ぶことを思慮して許しませんでした。内匠頭への忠義と、父親への孝行の板挟みになり苦悩した三平は、元禄15年(1702年)、内匠頭の月命日である1月14日に、自宅の長屋門の一室で切腹し、27歳の生涯を閉じました。「晴ゆくや 日頃心の花曇り」という辞世の句が残されています。

大阪の戦跡を歩く

第61歩

満州開拓物故者之碑

(大阪市天王寺区)



「お骨仏の寺」として有名な「一心寺」の境内にあります。戦前、中国北東部に「満州国」という傀儡国家をつくった日本は、官民をあげて多くの国民を「開拓団」として送り出しました。開拓団の人々は終戦時、ソ連からの攻撃を受け、日本軍にも見放されて多くの人が犠牲になりました。大阪開

拓団は、引き揚げ者数1791人、確認できた死亡者数906人、未引き揚げ者数1791人という記録が残っています。中国残留孤児など、世界の開拓史上、類例のない悲劇を生んだ満州開拓団。日本に引き揚げてきた有志らの手によって1951年、物故者の碑がここに建てられました。

撰津 河内和泉 三國誌 おおさか

62
(箕面市)

萱野三平と忠臣蔵 「忠」と「孝」の狭間で 苦悩の自刃を遂げた赤穂浪士

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

生くべくんば 民衆と共に
死すべくんば 民衆の為に
布施 辰治

一葉落ちて 天下の秋を知る
唐庚
北宗(中国)の詩人・唐庚(とうこう・1017~1121)の詩。「梧桐(おおぎり)の葉が一枚落ちるのを見て、秋の気配が天下に訪れたことを知る」という意味です。大阪・夏の陣で、大坂城落城を描いた明治の文豪・坪内逍遙(つぼうち しょうよう)の小説「桐一葉」の題名は、この故事からきています。